

安心して生活をしていますか・眠れていますか・食事は摂れていますか

人はさまざまな生活や環境の中で暮らしています。ひとり暮らしの方、高齢者のみの方、一人親家庭の方、不登校やひきこもりの方がいる家族、外国にルーツのある方など、まだまだたくさんあります。

倉吉市人権文化センターでは、このようにいろいろな状況の中で暮らしている人や各家庭が安心して暮らしていくための相談を受けつけています。

働きたいけど仕事がなく生活費に困っている、家賃が払えない、職場で嫌がらせを受けている上司からパワハラ・セクハラ、いじめにあっている。また、人権に関わることなど、なかなか人には言えないけれど、どうすることも出来なくて困っている。

そんな方々の方の相談に応じています。また、話すことで安心したり解決方法を見つけ出すこともできます。大切なことは、しっかり食べ、しっかり寝ることです。生活の基盤である住む・食べる・寝るということが保障されることです。

不安な状態の中で暮らしていると、体を壊したり、病気になったり、また、自分がいけないからだ責めてしまいます。個人の責任ではありませんのでみんなで解決していきましょう。

気軽に相談にお越し下さい。また、時間に合わせて対応出来ますので連絡を下さい。

連絡先 電話:22-4768(倉吉市人権文化センター)



差別落書きを見たら！人権侵害に気づいたら！すぐに知らせてください。

人権侵害や差別落書きは許されない行為です。私たちの故郷、自慢の町を落書きで汚され傷つけられるのはごめんです。みんなで気持ちの良いまちづくりをしていきましょう。

連絡先：倉吉市人権文化センター ☎・FAX (0858) -22-4768



まじすな

倉吉市人権文化センターだより

2022年5月1日 発行 No.137号

発行所：倉吉市人権文化センター

住所：倉吉市鍛冶町1丁目2971-2

電話/FAX：0858-22-4768

メールアドレス：jinkenbunka@ncn-k.net

令和4年度 手話教室を開催します！！

手話は聴覚に障がいのある方とのコミュニケーションを取る為の大切な、身近な言語の一つです。

基礎から学ぶことが出来ますので、初めて手話に触れる方でも、安心してご参加いただけます。一緒に楽しく手話を学んでみませんか？

☆講師の先生
山崎 恵子さん



参加は**無料**です！是非お気軽にご参加ください！

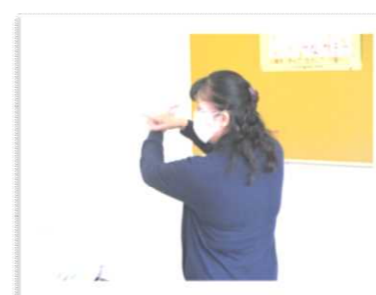
場所：倉吉市人権文化センター 時間10:00~11:00 電話 22-4768

※いずれも木曜日開催になります。

5月	6月	7月	8月	9月	10月
5月12日	6月9日	7月14日	8月18日	9月 8日	10月13日
26日	23日	28日	25日	22日	27日



昨年度の様子





人権絵本作成20周年『シンジとマサト』発行

～絵本を通して、子どもたちに豊かな感性を～



倉吉市人権文化センターでは、多くの方々の協力を得ながら倉吉市人権絵本作成委員会(メンバーは小・中・高校の教員、保育士、行政職員、一般市民)として、毎年人権絵本を作成しています。

昨年2021(令和3)年度は、人権絵本作成からちょうど20冊目(20年)の節目の年となりました。人権絵本作成のきっかけは、2001(平成13)年に「倉吉市S公民館差別投書事件」、

「倉吉市S小学校差別投書事件」があいついで発生、発覚しました。投書の内容は、「えたの○○○○(被差別部落出身者) かたわの○○○○(障がいのある人) おまえらが おるから 世の中が乱れる だまっとけ」と賤称語を用いて、差別解消に向け実践している当事者2人を名指し、誹謗中傷、罵倒するものでした。その事件を契機に、小学校低学年や幼少期の子どもたちが保護者や大人と一緒に、絵本を通じて人権問題を考えてほしいという願いを込め人権絵本の作成が2002(平成14)年から始まりました。その後、部落問題や障害者問題、在日外国人問題、高齢者、子ども、ジェンダー、新型コロナウイルスなど様々な人権問題を、委員が一から話し合い重ね、シナリオをつくり原画を作成してきました。そしてこの絵本は、市内の認定こども園・保育所、小・

中・養護学校・高等学校、図書館、コミュニティセンターに配付しています。

2021(令和3)年度は、絵本作成のきっかけとなった部落問題を題材にした絵本『シンジとマサト』を作成しました。原作は、倉吉市人権文化センター下吉真二所長が雑誌「部落解放」2021年5月号(805号)に寄稿された「私を変えたもの～バトンを受け継いで、そして未来に～」(倉吉市人権文化センターだより「きずな」8月号～10月号に掲載)を題材に編集、作成しています。

筆者の幼少期からの部落問題についての家族や地域の人たちの思い、また、自分自身の被差別体験と差別との闘いを思い起こしながら、展望が持てる内容として書かれています。

ぜひ、部落問題を正しく学び差別をなくしていく学習の場として、また、子どもたちの部落問題学習の一助として活用されることを期待しています。

倉吉市人権文化センターに他の20冊の絵本とともに、貸し出し用として保管しておりますので自由にご利用ください。

「二十冊目の主人公 シンジ君からのメッセージ」

私たちの先輩は差別を乗り越え、みんなの命を守るため解放運動を展開しました。そのおかげで今の私たちが暮らす町や社会があります。

私は、被差別部落に生まれたことを嘆き、差別から逃げようとしていましたが、多くの先輩に出会い、この村の歴史や運動を知ることができたのでこの村を誇りに思えるようになりました。そして、その誇りと先輩の思いを次の世代につなげたいと思います。解放運動や部落の先輩たちから受け継いだ部落解放のバトンを次の世代に、そして未来に、しっかりと渡さなければならぬ、それが私自身の社会的使命なのです。



人権絵本 20作品

特集 子どもを尊重する学級・学校づくり
私を変えたもの
バトンを受け継いで、そして未来に

下吉真二 編集 倉吉市人権文化センター

私は、一九五九年生まれの六二歳で、鳥取県倉吉市の戸数一〇〇戸余りの被差別部落に生まれました。この私が一五五にわたり市内にあるほとんどの小学校六年生(市内三校)に、自分の生い立ちと体験を中心に部落差別の話をしています。時間は七〇分を超えるときもあり、子どもたちには傍聴か修行のような時間です。しかし、その日はキラキラした輝きを最後まで失いません。そして、最後に私は、子どもたちに向かって「君たちは差別と闘える力、差別をなくせる力がある」、「若いころのこの下吉さんにはなかった差別をなくせる力が六年生全

員にある、ない人間はこの場にはいない」と訴えます。ここでは、この話の内容を紹介し、

親から部落出身を教えられ
私が小学生・中学生のころは、同和教育はまだ行われていませんでした。だから、だれも勉強してないし、先生も教えてくれませんでした。そんななかで、世の中には部落差別というものがあり、私自身が被差別部落出身だと知ったのは小学校六年のときでした。自分の親から親自身の生い立ちや体験を教えてもらいました。